

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：岡田自治会

開催場所：岡田公会堂

開催日時：平成 29 年 2 月 15 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

参加者：自治会側【地域住民の方 50 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、杉村地域生活部長、大村都市基盤部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、小玉初倉公民館長】

内 容

① 池田自治会長あいさつ

- ・各種団体の皆さんに出席をお願いしたところ、多くの皆さんにお集まりいただきありがとうございます。
- ・市長の話をお聞きいただき、ご意見があればしていただきたいと思います。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・敬老会等で岡田自治会に来るたびに、地域をあげて岡田を良くしたいという気持ちが溢れていると感じる。
- ・平成 27 年 12 月から、すべての自治会を回るため車座トークを実施している。全 68 自治会を回る中の本日 61 回目。
- ・平成 28、29 年度の 2 年で平成 30 年度からの島田市第二次総合計画、中心市街地活性化計画、国土利用計画、国土強靱化計画など、この先 10 年の島田の設計図のようなものをつくっている最中。
- ・各自治会を回り、地域の特性や皆さんの考え方、市が目指す行政の話をして、お聞きしたご意見や地域特性を総合計画に活かすことが目的である。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田市に限らず、全国的に人口減少が一番の課題。平成 29 年 1 月 1 日現在、静岡県は約 368 万人。昔は 380 万人だった。前月に比べて人口が増加したまちは 5 市町。逆に人口減少したまちが 29 市町。島田市は唯一増減無しだった。これまで少しずつ減少していたので、良い方向に転化する兆しと思っている。
- ・島田市の場合、18 歳から 20 歳前半までの若い世代の人口は流出している。逆に、子育て世代の転入が増えている。特に初倉と六合地区は、若者の転入と子どもの数が増えている。これを市内全体に広げるようなまちづくりをしなければならないと思う。

- ・産まれてくる子どもの数は、1975年から減ってきた。一方、平均寿命が延び人口が減らなかったため、社会全体としては大きく人口減少が問題とならなかった。
- ・3年前に日本創成会議から消滅可能性都市という言葉が出てきた。全国約1,700自治体のうち896自治体が、40年後に消えるというショッキングなレポートだった。それから人口減少を食い止めなければという流れになり、若い女性がいるまちをつくらなければならぬ。静岡県で若い女性の数が減っている理由の一つは、専門性の高い職業、雇用が少ないことだと思う。パートや臨時で勤める職業はたくさんあるが、専門性を活かせる特殊な職業に就ける場が少ないことが静岡県に若い女性が戻り難いところだと思う。
- ・一方、島田は確かに専門性の高い女性が就職する場は少ないが、子育て支援や教育を一生懸命に実施することで、子育て世代に選んでいただけるまちをつくらっていくことに力を入れている。
- ・平成29年度、約80人の0から2歳児を保育する新保育園や民間施設ができる。ほとんど待機児童はゼロになるが、来年は更に認定こども園が3園開園して保育の定員が増えるので、平成30年には潜在的待機児童を含めて保育園に行きたい人は皆行けるような島田市をつくる。
- ・放課後児童クラブの利用者が多くなり、待機児童が発生している。保育所が良くなったかと思うと、今度は放課後児童クラブという状況。初倉では、月坂保育園が、今春放課後児童クラブを開設する。六合では、高齢者施設が放課後児童クラブを開設する。民間に段々と広がっている。需要があれば必ず民間企業も手を上げてくれるので、子育てや教育に特化したまちをつくらっていく。
- ・人口減少、高齢社会で、医療・介護・福祉のお金はこれまで以上に必要となる。今までも島田市一般会計予算に占める医療・介護・福祉の扶助費が3割だったが、去年は33%になり、今年34%を越える。3%増が10億円以上違ってくるため、そこにお金がかかる時代になった。
- ・一方、子どもの数が減っており、選ばれるまちになるためには、若者に住んでもらえる施策をしっかりと実施していかなければならない。
- ・「市は、若者ばかり大事にして高齢者を大事にしてくれない」と言われたことがある。高齢者を大事にする施策もたくさん実施するが、一方で若者が住んでくれるまちにならないと、支え手がないため高齢者も幸せに暮らせない。若者をこのまちに引き入れていく施策をしないといけないと思う。
- ・高度経済成長期は、明日は今日より良くなると信じられた。税収も右肩上がりが増えていく時代だった。将来の人たちに負担してもらえば良いという考えのもと、色々な施設を造ることができた。例えば昭和58年には、小中学校6校・プラザおおるり・他の施設を造った。35年経ち、施設が老朽化し、あらゆるものを更新しなければならない時代となった。島田の財政が長期的に健全化していく方向に持っていけないと、若者が住んでくれるまちにならないと思う。
- ・病院や学校は、これからの人たちも使う施設であるため、世代間で応分に負担していくことは当然だと思うが、基本的には賢く選んで賢く使って、自分たちの時代のことは自分たちの財布で何とかしようという思いを持っていかないと、次の世代の人たちが自分たちのやりたいことをやれる島田市にならない。
- ・4年間で起債残高（借金）が約31億円減った。平成29年度末には300億円台となる。300億円台に減るのは合併後初めてのことで、これからのために工面して貯めた基金で、病院・学校・新東名金谷インター周辺の開発に力を入れていると思える。

岡田自治会の人口、世帯について

・岡田自治会の平成 29 年 1 月 31 日現在の世帯数は 479 世帯、人口は 1,372 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 355 人、高齢化率は 25.9%となっている。市の平均が 29.6%なので 4 ポイント低い。15 歳以下の人口は 240 人で、人口に占める割合は 17.5%となっている。市の平均は 13.7%。高齢者が平均より少なく、子どもの数が平均より多いので、働き盛りの方が多く住み、住みやすい場所ということが数字からわかる。市内には高齢化率 4 割、5 割のところもある。

■新病院の建設について

- ・新病院建設については、基本設計が平成 29 年 3 月に終了する。基本計画では約 247 億円としてきたが、精査した金額で示すことができると思う。オリンピックと重なるため、資材や人件費の高騰が心配されたが、この事業費内で収まると思う。平成 32 年度開院に向けて、平成 29 年度実施設計をしていく。
- ・建物 7 階建（一部 8 階建）、屋上にヘリポートを設け、最新型の医療機器を備えた病院となる。診療科目は現在とほぼ同じ。駐車場は約 960 台。病床数は 445 床。1 階 2 階が外来や検査室。4 階以上に入院室等が入る。
- ・最新の医療機器を備えた地域の拠点病院、災害時の拠点病院でもあるし、志太榛原の中で感染症の特別病床を持つのも島田市民病院だけ。市内にはここしか入院する病院が無いので、市民の命の安心安全をつなぐ場所として整備していきたい。
- ・同時に、医師の確保もしっかり実施していかないとならない。浜松医大との連携を強めている。京都大学系と言われていたが、京都大学からは「医師を派遣することができない」と言われた。その理由は、昔は大学が研修医の派遣先を決めていたが、現在は研修医が自分で行きたい病院を選ぶ。京都大学の医師は関西圏に留まることが多い。
- ・良い病院を造っても医師が確保できないと話にならないので、定期的に浜松医大に行き、学長や院長と島田市民病院や医療制度、浜松医大との連携の話を続けている。
- ・平成 29 年 4 月、浜松医大から副院長が着任するので、浜松医大から来てくれる副院長が 2 人になる。また、麻酔系の医師で、これまで藤枝の病院の副院長だった方が若手の医師を連れて来てくれた。色々な形で大学と繋がることで医師の確保を図っていききたいと思う。日本中の大学から医師が来てくれるが、連携をしていくことも大事だと思う。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・新東名島田金谷インター周辺の土地利用は、84 ヘクタールの広い土地を一度に農振除外しようとしている。これまでなら考えられない話だが、平成 29 年 3 月または 4 月頃には都市的土地利用を認めていただける目途がたった。
- ・平成 29 年度は、道路や水路の整備費に約 7 億円を計上している。基盤整備後、企業誘致を平成 30 年から実施していきたい。

・島田市・J A大井川・大井川鐵道・NEXCO 中日本の4者が連携し、賑わい交流拠点を整備する。J A大井川が、日本一の売り場面積を誇るマルシェやレストラン等をつくる。大井川鐵道は新駅を作る。島田市は、新東名下に国土交通省から土地を借りて広い駐車場を整備する。道の駅的機能や自動車・バス・鉄道・空港等の交通結節点として、付加価値の高い地域にしていきたい。84ヘクタールのインター周辺の開発事業の中の一番最初に手がけるところであり、全体の拠点になる場所として賑わい交流拠点をつくっていく。

■金谷中学校跡地の開発について

- ・一昨年アイデアコンペを実施し、コンセプトとして「癒し・健康・食」を提案の中からいただき、昨年は有識者会議を開催して事業計画方針案を出していただいた。今年は、事業コンペまで持っていきたいと思っている。
- ・3、4年後には、皆さんにご期待いただけるような、県が言うところの、ティーガーデンシティ構想の中の風の郷、賑わいの拠点、交流人口を呼ぶ拠点として開発ができていくと良いと思う。着々と準備は進めている段階。計画通り進めていくことが大事なことになる。
- ・金中跡地で足りないため、隣接する試験場まで買い増した。国の補助金交付を受けて買い増しているの、何も造れない現状のままだと補助金を返還しなければならない。そのタイムリミットも含めて、これらのプロジェクトを実施していかなければならないと思う。

■初倉地域の基盤整備について

- ・色尾大柳線、谷口中河線をしっかり進捗させていく。平成31年、32年頃、両道路の交差部分に島田市初のラウンドアバウト（信号機の無い環状交差点）を整備する計画。
- ・南原から牧之原市坂部に繋がる空港アクセス道路について、昔はトンネルで繋がると聞いたと思う。現在、事業着手して測量や用地交渉を行っている。トンネルではなく、上の稜線道路と交差して坂部に下りていく形になる。
- ・はばたき橋が出来てから抜け道として利用されており、牧之原市から来る車が朝夕多い。空港アクセス道路を造ることで、初倉は、牧之原・吉田・藤枝からの交通結節点になると思う。
- ・初倉の人たちは「もっと初倉を元気に、都会にして」と言うが、島田の市街地の人から「道路も広く、ホテルや店舗が多くあり、初倉が一番島田で都会的」と言われたことがある。
- ・色々な人たちが入ってくる交通結節点になってきている。ここに新たな工場を誘致できるような場所をつくりたいと考えており、中河に東中瀬工業団地を造る計画。土地の持主の意向もあり進捗していないが、先に半分でも整備したい。進出したい会社はある。工場誘致をすることで、ここに雇用を生んでいきたい。

■蓬莱橋周辺整備について

- ・初倉は蓬莱橋の右岸側に位置し、皆さんが七福神やハイキングコースを作って色々整備をしてくれている。
- ・蓬莱橋周辺に年間 12 万人の観光客が来ている。お休み処、物品販売所・新しいトイレをつくりたいと思う。まずは大井川左岸側からとなるので、蓬莱橋の番小屋付近に地方創生交付金等を使って整備していくことになる。
- ・川まちづくりの範囲は、蓬莱橋から博物館までを指定した。大井川左岸右岸を順番に整備していきたいと思っている。
- ・これまで国土交通省が規制緩和をしてくれなかったが、人口減少で規制する時代ではなくなった。行政も民間の皆さんが仕事をやりやすいようにお手伝いをする時代になった。

■環境への取り組みについて

- ・皆さんが一つでも「島田はこんなまち」と口にできるようになると、自分のまちへの誇りや自信が生まれてくると思う。「島田はどんなまち」の一つに、蓬莱橋、SL、島田大祭等があるが、再生可能エネルギーの先進都市であることを言いたい。
- ・川根温泉に発電機を4機備えた発電所をつくり、平成29年4月から温泉と一緒に出るメタンガスで発電するシステムを始める。川根温泉ホテルの年間電気使用量の6割から7割が自家発電で間に合うようになる。
- ・新東海製紙がバイオマス発電所を持っていることも大きな力となっているが、平成29年度中には、市内全域で使う電気量の37%~38%が再生可能エネルギー（太陽光・水力・バイオマス・田代環境プラザの熔融炉発電等）で賄えるまちになる。
- ・国は、2030年の目標を30%と定めているところから考えると、平成29年に島田市が37%を達成できることは全国屈指の再生可能エネルギーのまちになる。
- ・自分のまちの自慢を皆さんに知ってもらいたい。こうしたことを推進し、CO2削減、照明をLEDに換えていく、企業が設備を省エネのものに換えていく等の努力をすれば、40%、50%を達成していくことができる。まさに全国屈指の先進市になる。
- ・平成29年は、子ども子育て、環境、皆さんの健康を守ること、危機管理の4つを柱にしっかりやっというと思っている。
- ・皆さんも、我がまちはどんなまちと聞かれたときに、どんな風に答えるか、話を自分の中で組み立てていただけたらありがたい。

■これまでの市政運営について

- ・まちづくりを進める中で心がけてきたこと。行政は、島田市内で最大の究極のサービス業である会社と職員に言っている。
- ・この4年間、気を付けてきたことが3つある。
- ・1つ目は、対立軸を生まない行政経営をしたいと思った。島田は一つということをしっかりまとめていかないと、外に対して力を発揮することができない。中で揉めているまちではダメだと思った。一つになって外に向けて力が発信できるような形にしたいと思ってきた。
- ・2つ目は人材育成。これは世代交代。島田は優秀な人材が多いところだが、世代交代が進まないところもある。しかし、これから10年20年先を思えば、

30代40代が元気に動き出してくれなければ島田の未来はない。例えば、市の委員会等の人選をするとき、40代までの人を4割から6割は入れる。若い人たちの意見を聞く、そして若い方に行政やまちづくりに関心を持っていただくことをしっかりやっっていこうと思う。

・若い方の提案は、できるだけかなうようにしてあげたいと思う。先日、「島田市緑茶化計画を実施しているなら、市役所庁舎の色を塗らせてほしい」と言った若者がいた。「あと何年も使えない庁舎なので、1階部分だけでも緑色に塗りたい」と言った方もいた。若者がやる気になっていることについては応援していきたい。

・初倉も商工会の若手が、年間加入会員を100名以上集めて数年前は日本一になった。最近の初倉まつりを見ても、若者の頑張りが凄いと思う。

・3つ目は、市役所の改革。組織改革も意識改革もしっかりやっていかないとならない。市役所は究極のサービス業だから、我々の仕事の先に市民の皆さんの顔が見える仕事をしなければならない。挨拶一つから始まることだと思う。当たり前のことだが、しっかりやっっていく。市役所の組織も市民の皆さんに向き合う組織と、行政の中を見る組織の2本立てにして運営をしている。

・職員に知らせていくが、経営する4つの柱をつくった。

・1つは市民ファーストのまちをつくる。

・2つ目は、効果や成果を検証しながらスクラップ&ビルドをする。何か新しいことを始めるなら、何か一つ終わらせるくらいのことをしないと財源も生まれてこない。平成29年度の予算編成は終了したが、予算編成のときに、職員には事業を実施するための財源はどこから持ってくるのか聞く。

・3つ目は島田らしさの追求。本日、2月議会の初日だが、毎回議会初日には島田市歌を歌う。こうしたことも、学校や色々な場所で歌うことは、島田に住む人のアイデンティティーを生むこと。まちづくりは、精神的なところの土壌も必要だと思う。島田らしさの追求、政策的にも、まちづくりにおいてもそう。市民会館前にたった1本しかない帯桜が、挿し木で増やして約100本まで養生できてきた。これが5年木6年木になれば、色々なところに植樹できる。昨年は中央公園に約10本植樹した。こうした帯桜のまちづくりも島田らしさの追求だと思う。色々な形で島田らしさを施策の中で追求していく。

・4つ目は、市民協働ということを常に念頭においた事業運営を展開していくこと。正直、行政だけで何でもできる時代ではなくなった。皆さんが望むことも多様化してきた。すべてに応えることが出来ない。そうした中で、自分たちの地域の課題は自分たちで解決しようという取り組みを応援していく。

・例えば、道悦島で始めたサービスだが、1時間利用券500円、ゴミ出し1回150円で高齢者の生活支援サービスを実施している。地域の中で見守り活動と互助の精神を発揮しようということだと思う。負担にならない範囲で、こうしたことを始めた自治会もある。

・放課後、公民館で高齢者が子どもを見ることを始めたところがある。

・地区をあげて防災の人材を登録して活動しているところもある。

・北部では、車・ガソリン・保険を市が負担して、地域内を走るバスを運行することを検討している。

・これからのまちづくりは、これまでと同じでは回っていかない時代になった。新たな行政の形を早く方向転換できたまちが、これから大きく変わっていくと思う。

■ICT教育について

・今後5年間、藤枝市と連携してICTで人を呼び込む「教育産業づくり推進プロジェクト」を立ち上げた。4月から人型ロボットを市役所玄関に設置する。初倉地域を指定してICTの推進教育を実施していきたい。英語教育やコンピューター教育に力を入れていきたいと思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■島田市歌について</p> <p>平成20年頃に市町合併があった関係だと思うが、歌詞が改変された。我々が小学校の頃、習ったときは難しくて何だかわからなかったが、格調高い歌詞だと思っていた。</p> <p>ここ20年くらい忘れ去られていた。全く市歌が流れていなかった。それが、ここ5年くらいからチャイムが鳴るようになった。高齢者施設等で歌うようになり、聞いてみると歌詞が全然違う。新しく改作してくれた作詞者には悪いですが、あの歌詞では歌う気にならない。今更元に戻すことは難しいと思うが、島田在住の鶴橋仁作が昭和23年に歌詞を書いた。5年前に作曲家の名前（高田三郎）を聞いて驚いた。日本の現代音楽や合唱曲に多少知識があれば、高田三郎はとても凄い方とわかる。</p> <p>漢籍や和漢に通じる教養があれば書ける歌詞で、現代の我々が書ける歌詞ではない。大変な教養人が書いたと思うが、それをつまらない歌詞に変えてしまった。元に戻すことは不可能だと思うが、公共的な場所で歌詞を発表する場があれば、現行の歌詞と改定前の歌詞を並列するとか、CDを作成するときに、新旧の島田市歌を入れるとか。極論すると文化破壊。歴史の改竄でもある。子どもの頃に刷り込まれた歌詞なら3番まで厳粛な気持ちで歌う気になる。今の歌詞では歌う気にならない。</p>	<p>●平成17年に金谷と合併し、平成20年に川根と合併して新しい市歌をつくった。特に平成17年の金谷町と合併したときに新しい市歌をつくることになった。そのとき、詞も曲も全て変えて新しい市歌にしたらどうかと話があった。そうした中で、高田三郎のこの曲だけは残したいという強い想いの中で、金谷町民も川根町民も我がまちの歌と感じていただけるように、それぞれの地域を歌い込んで歌詞を変えることになった。昔の島田市歌が懐かしいということもあると思う。</p>
1-2	<p>■懐かしさで言っているのではない。文学的価値で見ると比べ物にならない。</p>	<p>●島田全体の島田市歌としては、金谷、川根、初倉も皆島田市民になったので、その皆が受け入れられる島田市歌にしないといけないということで</p>

		<p>歌詞が変わったということ。高田三郎さんの曲を残せただけでも、当時の人は頑張ったと思う。鶴橋仁作さんの歌詞で歌うことは、地域の中でやることはかまわないと思う。島田市全体の公式な市歌としては、今の市歌を広めていきたいと思う。</p>
<p>2</p>	<p>■市立図書館の分館について</p> <p>ネットで取り寄せた本を初倉地域総合センターで受け取ることができるし、島田図書館で借りた本をセンターで返すことができる。現物の本の有無で違うので、初倉にも図書館が欲しい。</p> <p>吉田町へのアクセスが良くなったため、初倉の人は、島田図書館に行くより吉田図書館に行く方が近くて便利。島田市と吉田町の図書館がコラボして何かやれたら。</p> <p>吉田町図書館にリクエストを出していたが、最近、町民以外の方は年1回しかリクエストできなくなったと言われた。</p>	<p>●図書館は蔵書数がたくさんあることが魅力となる。</p> <p>現在、広域で連携しているため、吉田町の図書館、島田市の図書館、藤枝市の図書館もカードを持つことができる。各館がお互いに無い本を融通して、島田に無ければ他市町から借り、島田にある本を他市町に貸すこともできる。初倉の方が吉田の図書館を使いたいということであれば、広域連携の中で他市町からも島田の図書館に来ているため構わないと思う。</p> <p>リクエストの冊数等については不便かもしれないので、それについては島田の図書館に言っていただくのがいいのかもしれない。幾つも分館はできない。それなりの蔵書数があり、視聴覚機能が整い、雑誌の冊数も多い等を皆さん望む。たくさん施設を造ることはできないので、拠点化していかざるを得ない。</p>
<p>3</p>	<p>■お茶農家の実態について</p> <p>お茶農家の実態を聞いてほしい。お茶に肥料や防除をすると、その夜は記録をすることが多い。それだけではなく内部調査で検査がくる。良いお茶を作るためということは理解するが、もっと緩和してもらえようようにお願いしてほしい。</p> <p>家族は、農地を売ってしまえと言うが、買ってくれる人はいない。山の方なら荒らしてもいいが、平坦な所を荒らすわけにもいかない。一生懸命がんばっている。そうしたところをもう少し緩和してくれないかと思う。</p>	<p>●肥料や防除の書類については、多分農協が取りまとめていると思うが、農協に相談の手伝いができる方がいると思うので、私からも話をしておく。市の申請書が難しいとか大変とか言うときには、職員が付いてお手伝いをさせていただきますので、声をかけていただけたらと思う。</p> <p>需要と供給の中では、需要の方が上向いてきて、供給が追いつかなくなってきているので、これからは、お茶はある程度盛り返していくのではないかと思う。そのための新たな補助金が出ていると思う。お茶ができなかったら、他の作物に変える補助金や様々な施策を取っている。耕作放棄地の対策をする専門員を農林課に配置しているので相談していただきたい。</p> <p>同時にお茶を売る側として、出口調査の専門員を雇いたいと思っている。行政も行政の職員だけでなく、そこにスペシャリストが必要となってきた。弁護士も常設で市役所の中に置いている。色々な形で専門家を配置するこ</p>

		とで、これまでにない様々な対応ができるようになってきている。何か困ったことがあれば相談していただければと思う。
4	<p>■保育園の入園について</p> <p>子どもが月坂保育園に通園している。子どもが4人いて、第3子が月坂保育園に通っている。第4子の保育園入園希望を月坂保育園で出しているが3回落ちている。</p> <p>0～2歳の保育園が出来ると聞いたが、場所が遠いので、できれば兄弟同じ保育園に通いたいと思うので考えてほしい。</p>	<p>●新保育園は、向谷に72人定員で建設する予定。小規模保育施設は、若松町に12人定員ができると聞いている。</p> <p>平成28年4月、みどり認定こども園が保育園の定員を増やした。</p> <p>平成30年には、島田学園附属幼稚園、中央幼稚園、五和幼稚園が認定こども園化するので、ここでも保育の定員は増えていくと思う。</p> <p>保育園は、兄弟が同じ園に通えるように配慮をしているが、例えば、祖父母の同居の有無や保護者の就労時間等で点数化され、優先順の高い方から入園していく仕組みになっている。</p> <p>市内全域では待機児童もいるが、逆に空いている保育園もある。3歳児以上の待機児童はゼロ。0～2歳児で待機児童が発生する。0歳児は子ども3人に保育士1人が必要。保育士の成り手が無い中で、この3人に1人の体制が取れないところで困っている。「向谷は遠いので、できるだけ初倉の中で」ということですが、皆さんにはご迷惑をおかけしている。色々な要望をいただいている。点数化して調整しているのでご理解いただきたい。障害の有無や保護者の急な疾病等で、優先順位が急に高くなる子どももいるため大変なところ。潜在的な待機児童がなくなるようにがんばりますので、もう少しお待ちください。</p>
5	<p>■公園整備について</p> <p>岡田地区は若者が多いと話があった。色々な会合等で、この地区には公園が無いという声が聞こえる。吉田公園や中央公園に行かなければならない。初倉にも公園があればと思う。</p>	<p>●この話は、若い人たちからよく聞く。公園にするかどうかも含めて検討しなければならないが、みどり幼稚園の跡地はとても良い場所である。県道との境目に家庭菜園があるので県道とは繋がっていない。地域の皆さんに草刈等の応援をさせていただいており、どのように使うかについては、できるだけ初倉の発展に資するものにしたい。例えば、話をいただいたわけではないが、初倉郵便局等の公共的な施設を置くには良い場所だと思う。どのように使うかということ、皆さんと協議しているところ。ただし、みどり幼稚園が移転した理由は、地盤が悪いので高い建物が建てられない</p>

		<p>ということで大柳に移転したので、公園ならば問題はないかもしれないが、大きな建物を造れる場所ではない。そうした中で、皆さんが公園を望むのか、道の駅という話も以前から出ている。ただ、道の駅は、金中跡地も含めて空港周辺がどのようになっていくのか、金谷には賑わい交流拠点ができてくるので、道の駅で皆さんの想いが満ちるのかどうかということと、誰が運営するのかということ。運営する人がいるなら、話が決まりやすい。それが無いと難しい。公園等の要望書を出していただく等をしてもらえると、行政も返事がしやすいと思う。</p>
<p>6</p>	<p>■療養型病床について 国の方針で入院患者を減らして、これからも少なくなる。新病院について、445 病床と聞いたが療養型病床が無い。焼津市や藤枝市は、老人施設のような病院があるが島田市には無い。療養型病床が無くて家庭に返されても看れる人ばかりではない。どのように考えればいいのか。</p>	<p>●島田市民病院の病床が 445 床となったのは、療養型病床が無くなったため。これまでも、一般的には終末期まで入っているところが療養型病床と言われていた。島田市民病院は、そのような使い方はほとんどされず、次に行くところが決まるまでの間、入院する使い方をしてきた。そのような使い方においては、今後も次に行くところが決まるまでは一般病床の中で看るということで療養病床は使わない。</p> <p>何故、療養病床が無くなったのかと言うと、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年、これを目標に国は病院（施設）から在宅へという大きな流れをつくろうとしている。そのため、島田市も平成 28 年度から 24 時間訪問看護ステーションを開設し、在宅に居る方の具合が悪くなったら夜中でも看にいけるようなナースステーションをつくって対応している。2025 年の在宅への大きな流れと同時に、病院を高度急性期・急性期・慢性期・回復期と機能別にしようとして厚生労働省は目論んでいる。急性期の病院に特化すれば、看護師 1 人に対して患者 7 人の体制でやっていく。療養病床となると、看護師 1 人に対して患者 15 人等の体制に変わっていく。急性期と慢性期の病床では医療報酬の点数が違う。病院も経営をしていかなければならないため、島田の病院は急性期の病院で運営していこうと決めた。</p> <p>市内に療養型病院がつかれないか検討した。しかし、個人病院であっても志太榛原医療協議会に申請して認められないとベット数を増やすことが</p>

		<p>できない。志太榛原内に療養病床が1,060床ある。この1,060床は、これからの需要に耐えるものだというので、新病院の建設許可が難しいとわかった。病院も100床規模でないと、経営が安定していかないということもある。そうした中、島田は、市民病院内に次に収容していただける場所を紹介する部署をつくり、しっかりと次に行く先を紹介させていただくようにしている。</p> <p>この頃、金谷地域に施設が増えてきた。ショートステイ等を含めて療養型に近い施設が増えてきていることもあり、療養型病床については、広域連携の中でやらせていただくと考えている。</p>
<p>7</p>	<p>■グラウンドゴルフ場の出入口整備について 博物館前のグラウンドゴルフ場の出入口が1箇所しかない。混雑して危ない。もう1箇所出入口があれば。</p>	<p>●島田は、グラウンドゴルフ場を全ての自治会が持っている先進都市。入口や舗装等で要望が出るが、国土交通省の許認可のことがある。</p>
<p>8</p>	<p>■若者のUターンについて 人口減少対策として若者のUターンがある。 市役所では、平成29年4月から5年以上社会経験を積んだ地方創生枠の採用を始めたが、この取り組みを民間企業にも浸透するよう働きかけてくれば、もう少し雇用の場も増え、一旦都会に出たが地元に戻る人も増えてくるのではないかと思うので検討してほしい。</p>	<p>●島田市役所は、一般採用枠以外に平成29年採用から地方創生枠で、他の地域で5年以上働いた人を採用した。予想以上の応募があり、想定以上の人数を採用した。優秀な人も多く、地方創生枠は効果が有ると思う。民間企業にも地方創生枠を増やしていただきたいと思う。昨年4月から島田市産業支援センター「おびサポ」を設置した。当初目標とした年1,200件の倍以上の相談件数がある。99%が中小企業の島田市なので、1社が1人ずつ採用枠を増やしてくれば多くの雇用が生まれる。様々な補助金も含めて民間の経営のサポートをしている。そうした中で地方創生枠を採ってほしいと依頼していく。</p> <p>先日、30歳の同窓会を開催した。一度島田から離れて都会に行った人も30歳位になれば、都会に住み続けるのか、故郷に帰るのか考える時期だと思う。その時、島田に来てもらい島田に住む友達と会って、島田市の情報を得て島田市に帰ることも選択肢の一つだと思っていただけるよう取り組みを始めた。あの手この手で若者が増えるように努力していきたい。 ご意見は民間企業にも伝えていきたい。</p>

<p>9</p>	<p>■ふるさと納税について 島田市でもふるさと納税は実施しているのか。</p>	<p>●実施している。 今年約1億円になる。焼津市は全国トップレベルなので、島田市は少ないと印象を持たれるかもしれない。全国的に上位の自治体は、美味しい牛肉か海の幸があるところ。全然関係無い自治体の物産を返礼品にして、ふるさと納税を集めているところがある。ふるさと納税は、皆さんが思うように全額市に入るお金ではない。島田市の例では、1万円の寄附に対して5千円相当のお返しをしている。郵送料やインターネットサイトの運営費等の経費がかかっている。また、皆さんが他自治体に寄附した場合、島田市は税金を控除しなければならない。皆さんが他自治体に寄附をすればするほど、島田市は赤字になる。全国的には、約1,700の自治体がふるさと納税を実施しているが、半数以上が赤字となっている。島田市は黒字だが、純益は約10%。 ふるさと納税の仕掛を皆さんに知っていただきたい。本来の趣旨のふるさとを応援する目的から、お買い物サイトになっている。総務省も行き過ぎた制度に歯止めをかけようと通達を出している。このまま続く制度ではないと思う。首都圏の自治体等は、このために数十億円の赤字となっている。納税を受けている自治体も全額が利益になっていない。純益は2、3割あれば良いところ。 島田は、ふるさと納税で頂いたお金の使い道を、できるだけ見える化したいと思っている。例えば、小中学校のトイレの洋式化の前倒しに使っている。学校の施設整備等に使っており、ふるさと納税が形になったことを見せることも寄附をしてくれた方へのお返しだと思う。 大井川マラソン出走権に5万円以上のふるさと納税を対象としたところ約40人の応募があった。</p>
<p>10</p>	<p>■大井川マラソンの収支について しまだマラソンは赤字か黒字か。</p>	<p>●黒字である。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

